

⑤ 日本国特許庁(JP)

⑥ 特許出願公開

⑦ 公開特許公報(A)

平3-133928

⑧ Int. Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	⑨ 公開 平成3年(1991)6月7日
A 61 K 31/35	ACN	7475-4C	
A 23 F 3/18		6946-4B	
A 61 K 31/35	AED		
35/78	ACR C	8412-4C	
	AED		
// C 11 B 5/00		2115-4H	
C 07 D 311/62		7252-4C	

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全4頁)

⑩ 発明の名称 α-アミラーゼ活性阻害剤

⑪ 特 願 平1-270228

⑫ 出 願 平1(1989)10月19日

⑬ 発 明 者	原 征 彦	静岡県藤枝市南駿河台2-2-7
⑭ 発 明 者	本 田 美 和	静岡県藤枝市瀬古2丁目7-23 アーバンエルシーA202
⑮ 出 願 人	三井農林株式会社	東京都中央区日本橋室町3丁目1番20
⑯ 代 理 人	弁理士 久保田 藤郎	

明 細 書

1. 発明の名称

α-アミラーゼ活性阻害剤

2. 特許請求の範囲

(1) 茶ポリフェノールを有効成分とするα-アミラーゼ活性阻害剤。

(2) 茶ポリフェノールがエピガロカテキンガレート、エピカテキンガレート、エピガロカテキン、エピカテキン、(+)-カテキンおよびこれらの異性体、遊離型テアフラビン、テアフラビンモノガレートA、テアフラビンモノガレートB並びにテアフラビンジガレートの中から選ばれた少なくとも1種の物質である請求項1記載のα-アミラーゼ活性阻害剤。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はα-アミラーゼ活性阻害剤に関し、詳しくはα-アミラーゼに特異的に作用することによりその活性を阻害するα-アミラーゼ活性阻害剤に関する。

(従来の技術、発明が解決しようとする課題)

「絶食の時代」と呼ばれる現代では脂肪やそれに付随する成人病が大きな課題となっており、食餌制限や食物の摂取調節は健康管理のひとつとして重要である。

このような流れの中で食物として吸収されないダイエタリーファイバーが多方面で注目され利用されているが、その作用は肥満を積極的に抑制するものというより、主に発癌物質を含め身体に有害な物質の吸収を調節し、腸の排泄機能を高めるものである。

α-アミラーゼは多糖を加水分解する消化酵素で、ヒトにおいては唾液や膵液から分泌される。従って、その活性を阻害することにより食性を適度に満足させつつ肥満を抑制することができ、また糖尿病治療にも効果があると考えられる。現在種々のα-アミラーゼ活性阻害剤が開発されているがその効果は十分なものではなく、また副作用が心配される物も多い。

従って、α-アミラーゼの活性を阻害し、人体